

けいはんな B 班 第 6 回探訪 山の辺の道

～近鉄桜井駅から JR 卷向駅までを歩く～

1. 概要

探訪先：山の辺の道（仏教伝来之地碑、金屋の石仏、三輪山平等寺、大神神社及びその摂社、玄賓庵）と 纏向遺跡及び箸墓古墳

集合：2023 年 10 月 25 日午前 10 時、近鉄大阪線桜井駅

参加者：受講生 20 名、CA 2 名、ボランティアガイド（午後） 3 名

スケジュール：

10 時 00 分～10 時 30 分 桜井駅を出発、仏教伝来之地碑（山の辺の道南端）を目指す

10 時 30 分～11 時 40 分 仏教伝来之地碑、金屋の石仏、三輪山平等寺、大神神社（拝殿）から昼食場所へ移動

11 時 40 分～12 時 40 分 昼食および休憩

12 時 40 分～15 時 10 分 大神神社二の鳥居から参道、祈禱殿前、くすり道を通り、狭井神社、玄賓庵、桧原神社、箸墓古墳を経て JR まほろば線卷向駅に到着

2. 午前の部

（1）仏教伝来之地碑

欣明天皇の時代に百済の聖明の使節が訪れ、日本に仏教を最初に伝えたといわれている場所。山の辺の道の南の起点、到着点。



（2）金屋の石仏

収納庫に収められた 2 体の石仏。泥板岩に釈迦如来像と阿弥陀如来像が浮彫りにされている。



仏教伝来之地碑から金屋の石仏へ



石仏収納庫



金屋の石仏



金屋の石仏から三輪山平等寺へ

(3) 三輪山平等寺

かつては大神神社の神宮寺でもあった平等寺は明治元年に神仏分離令が出ると廃寺となったが、1977年、曹洞宗の寺院、「三輪山平等寺」として再興され伽藍も復元されている。



(4) 大神神社（三輪明神）

学芸員さんによる大神神社の由緒、祭神などの説明を受ける。

大神（おおみわ）神社は、奈良盆地の東南にある円錐形の秀麗な山、三輪山（標高 467 m）を御神体とする日本最古の神社といわれている。拝殿は寛文四年（1664年）四代将軍徳川家綱が再建したもので重要文化財に指定されている。拝殿の奥正面には「三ツ鳥居」と呼ばれる大小の鳥居三つを一つに組み合わせたような形の鳥居があり重要文化財に指定されている。



拝殿



学芸員さんの説明を聞く

3. 昼食および休憩

三輪そうめん、柿の葉寿司等が名物の「福神堂」で昼食。



4. 午後の部

(4) 大神神社 (三輪明神) (続き)



二の鳥居



参道



祈祷殿



祈祷殿なでうさぎ

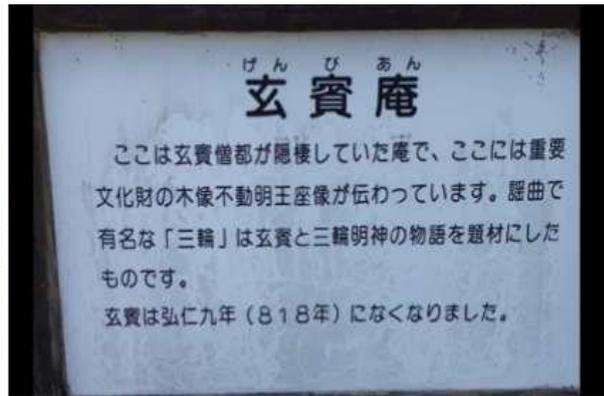
(5) 狭井神社

狭井神社(さいじんじゃ)は、正式には狭井坐大神荒魂(さいにいますおおみわのあらみたま)神社とよばれ、大神神社の摂社。拝殿の左後ろにある井戸は、「狭井」の名前の由来になっており、太古から薬水と称して、この霊泉は万病に効くと古くから伝えられている。



(6) 玄賓庵

玄賓庵（げんぴあん）は、平安時代の高僧・玄賓僧都（げんぴんそうず）が修業した場所といわれ元々、三輪山の檜原谷にあり、明治初年の廃仏毀釈で現在の地に遷された。



玄賓庵から松原神社へ

(7) 松原神社

松原神社（ひばらじんじゃ）は、大神神社の摂社で「元伊勢」（元伊勢（もといせ）は、伊勢神宮（内宮と外宮）が、現在地へ遷る以前に一時的にせよ祀られたという伝承を持つ神社・場所）とも呼ばれる。





桧原神社から箸墓古墳に向かう途中の池



池の畔で川端康成の歌碑の説明を聞く

(8) 纏向遺跡と箸墓古墳

桧原神社から巻向駅に向かう途中、3世紀始めごろに出現した当時国内最大の集落跡である纏向遺跡の中に位置する箸墓古墳の説明をガイドさんから受け、巻向駅プラットフォームからは纏向遺跡の大型建物跡（柱跡）を確認。

邪馬台国の女王卑弥呼の墓という説もある箸墓古墳は、我が国最初の巨大古墳として知られ、現在は宮内庁で管理されている。



箸墓古墳



纏向遺跡の大型建物跡（柱跡）

天気にも恵まれ、秋の山の辺の道を満喫できた有意義な一日だったと思います。
お疲れさまでした。

記録：B－3班